

「一灯一室に遍じて闇を除き、

一日一天に遍じて黒を奪う。」

お大師さま『大日経開題』

部屋の照明や、太陽の光は、闇を除き、

その場所は照らしますが、心の闇には届きません。

しかし、大日如来さまの光明は全てを照らし、あらゆる不安を取り除きます。これをして「遍照」といい、お大師さまのご宝号にも含まれています。

ところが、やっかいなことに、子供は素直に明かりに向かって育ちますが、大人は、帰って光を恐れ、自ら闇に隠れようとしています。

その証拠に、子供は、失敗を恐れますが、大人は、失敗が他人に知られることを恐れます。それこそが闇の入り口となります。

光から目を背けないためにも、常に正直でいましょう。他人に勝っても闇は消えません。世間を欺いても闇はなくならず、あなたが世界を牛耳っても、漆黒の闇はあなたを飲み込んでいきます。

さあ、自らの闇を照らしましょう、一番身近で、もつとも自由にしていはいはずの自分自身を。

平成二十七年文月

南山 沙門 修詮記